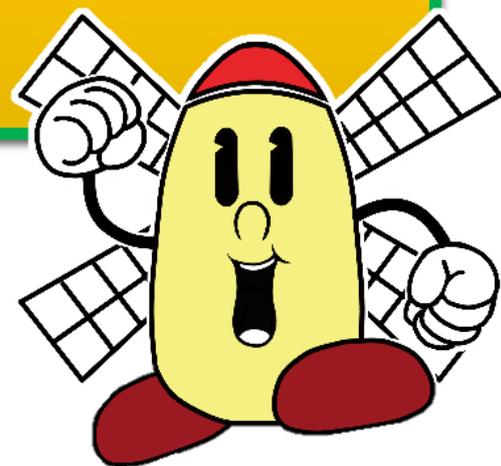


若者ワークショップ
『高生まつぶし未来プロジェクト
～君のアイデアがまつぶしを創る～』



実施報告書

令和4年8月

会議概要

1. 名 称 『高校生まつぶし未来プロジェクト～君のアイデアがまつぶしを創る～』
2. 目 的 令和6年度を始期とする第6次総合振興計画の策定にあたり、若い世代の町政への関心を高めていただくと共に、高校生の皆さんの視点から松伏町の魅力や今後のまちづくりの方向性などのアイデアを提案していただくものです。
3. 参加者 松伏町内に在住または、在学の高校生の方（公募）
4. 参加人数 合計9名（第1回8名、第2回7名が参加。応募者11名）
5. 開催日時 第1回 令和4年7月28日（木） 13時～17時
第2回 令和4年8月 4日（木） 13時～17時
6. 場 所 松伏町役場本庁舎2階 201会議室
7. 実施内容 第1回 1 開 会
2 委嘱式
3 町長あいさつ
4 自己紹介
5 ワークショップ
（1）ワークショップスケジュールについて説明
（2）SDGsカードゲーム体験
（3）グループワーク
テーマ「ずっと住みたい！と思える松伏町とは？」
（4）その他
6 閉 会

第2回 1 開 会
2 自己紹介
3 ワークショップ
（1）ワークショップのスケジュールについて説明
（2）グループワーク
テーマ「ずっと住みたい！と思える松伏町とは？」
4 町長へプレゼンテーション
（1）町長へのプレゼンテーション
（2）町長より講評
5 参加者アンケート
6 閉会

実施報告

【第1回】令和4年7月28日

- 委嘱式、町長あいさつ

鈴木町長から委嘱書が手渡され、皆さんが高校生まつぶし未来プロジェクト委員を委嘱されました。A班、B班の2グループに分かれ、グループワーク等を行います。



※撮影時のみ一時的にマスクを外しています。



•ワークショップ

(1) ワークショップスケジュールについて説明

(2) SDGsカードゲーム体験

各グループで自己紹介を行い、その後、SDGsカードゲーム体験を行いました。

SDGsカードゲーム体験では、役場職員がファシリテーター（案内役）となり、提示したトレードオフカード（課題）に対して、参加者がリソースカード（資源）を示して解決案を発言し、課題解決を目指すというものです。各グループで活発な意見が交わされ、SDGsについて学びました。



(3) グループワーク

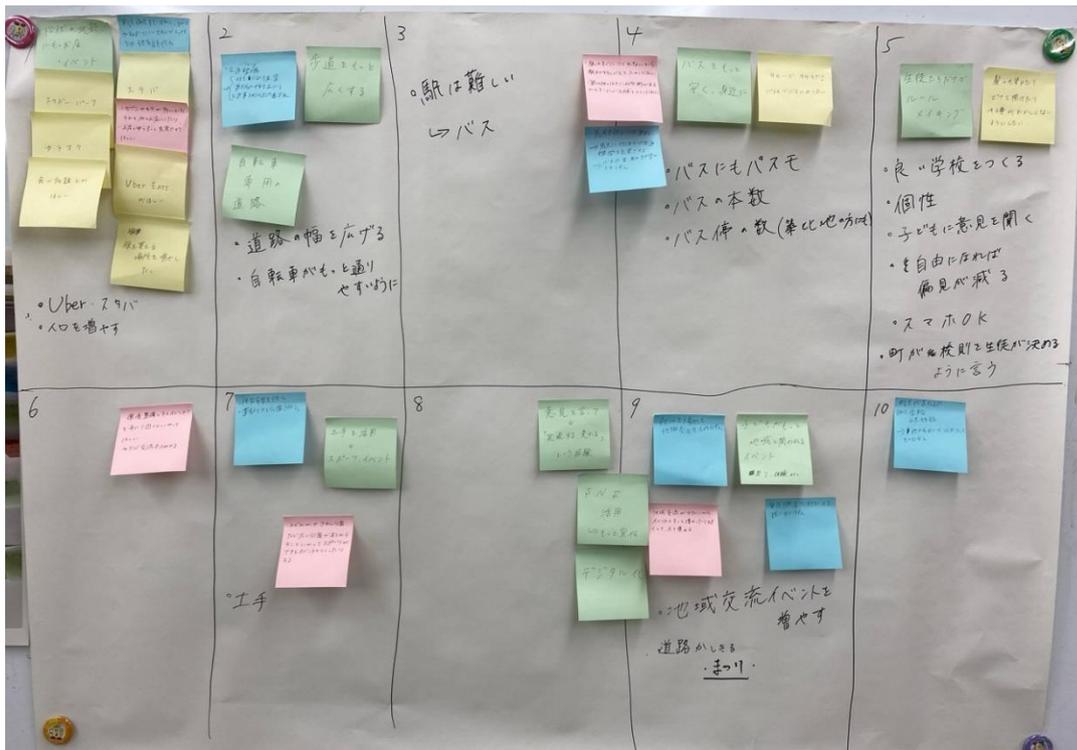
テーマ「ずっと住み続けたい！と思える松伏町とは？」

今回の目的である若い世代の町政への関心を高めていただくと共に、高校生の皆さんの視点から松伏町の魅力や今後のまちづくりの方向性などのアイデアを提案していただくため、「ずっと住み続けたい！と思える松伏町とは？」について話し合うグループワークを実施しました。第2回の最後には町長へのプレゼンを行います。各グループで決めたリーダー主導の元、各自がアイデアを出し合います。

A班

A班はまず町の悪いところについて案を出し、それを改善するための案を考えました。

町の悪いところ	改善策
遊ぶところ、飲食店がない	人口を増やす、店舗を呼び込む、商業施設を呼び込む
歩道が狭い、自転車が通れない	道を直す、道路の幅を広げる
バスの本数、バス停が少ない	本数を増やす、バス停を増やす、PASMO を使えるようにする
校則が厳しい	自由な学校を作る、校則を生徒が決められるようにする
自然環境が整っていない	環境を考えるイベント等を行う
スポーツできる場所がない	スポーツ施設を作る、スポーツイベントを行う、土手を活用する
投票率が低い	SNS 活用、デジタル化で投票所へ行ってもらう
地域交流が少ない	地域資源を活用したイベントを開催する
観光スポットがない	町を代表するイベント等を開催する



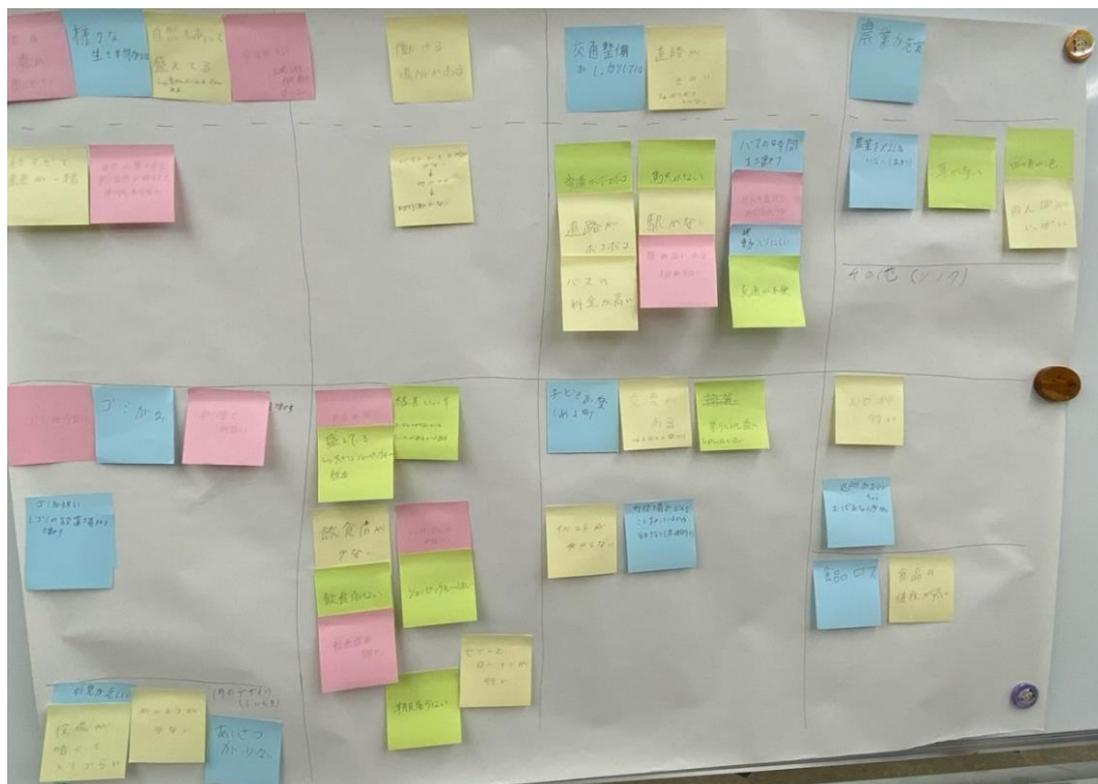


B 班

B 班は町の現状分析とどのような町なら住み続けられるかを考えました。

町の現状	住み続けられる町
緑過ぎて景色が一緒、建物が少ない	自然が豊か、様々な生き物がいる等
働ける場所がない	働ける場所がある
交通が不便、道路がガタガタ等	交通整備がしっかりしている、道路がきれい等
田が多い、農業をやる人がいない、草が多い	農業が充実
ごみが多い	ごみがない、ポイ捨てがない
飲食店が少ない、店が少ない等、役場が暗い、街灯が少ない、挨拶が少ない	店が多い、栄えている、特色が出せている
イベントがわからない、役場がやっていることがわからない	子供が楽しめる、交流がある、祭りが盛ん等
	人口が多い、老人が多い、特色が出せる、町の補助金が豊富等

その他問題点 食品の高騰、食品ロス、SDGs





(4) その他

【第2回】令和4年8月4日

・ワークショップ

(1) ワークショップのスケジュールについて説明

(2) グループワーク

テーマ「ずっと住み続けたい！と思える松伏町とは？」

第1回に続き、各班でテーマについて話し合い、キャッチコピーを考えます。最後は模造紙1枚に意見をまとめ、町長へプレゼンテーションを行います。





- ・町長へプレゼンテーション
(1) 町長へのプレゼンテーション

A 班

【キャッチコピー】 みんなが自由に学べる！楽しめる！お米のような町

《お米のような町とは？》

- ・煎餅、餅、白飯、おにぎりの様に様々なものになれる（多様な未来が待っている）
- ・1つの粒に栄養、甘さ、美味しいものがつまっている
- ・若い芽が稲穂になってお米になるまで（子供から高齢者になるまで住み続ける）
- ・お米のように未来が輝く人や町をつくりたい

人を呼び込むために…

《教育》

○町立高校を作る

- ・今ある学校を変える
- ・やりたいことを生徒が自由にできる学校
校則、イベント、カリキュラムを生徒自身が決める
体験型、地域密着（農業、サイクリング）授業。
- ・高い学力があり、勉強もできる
- ・教育を充実させて人を呼び込む

《イベント》

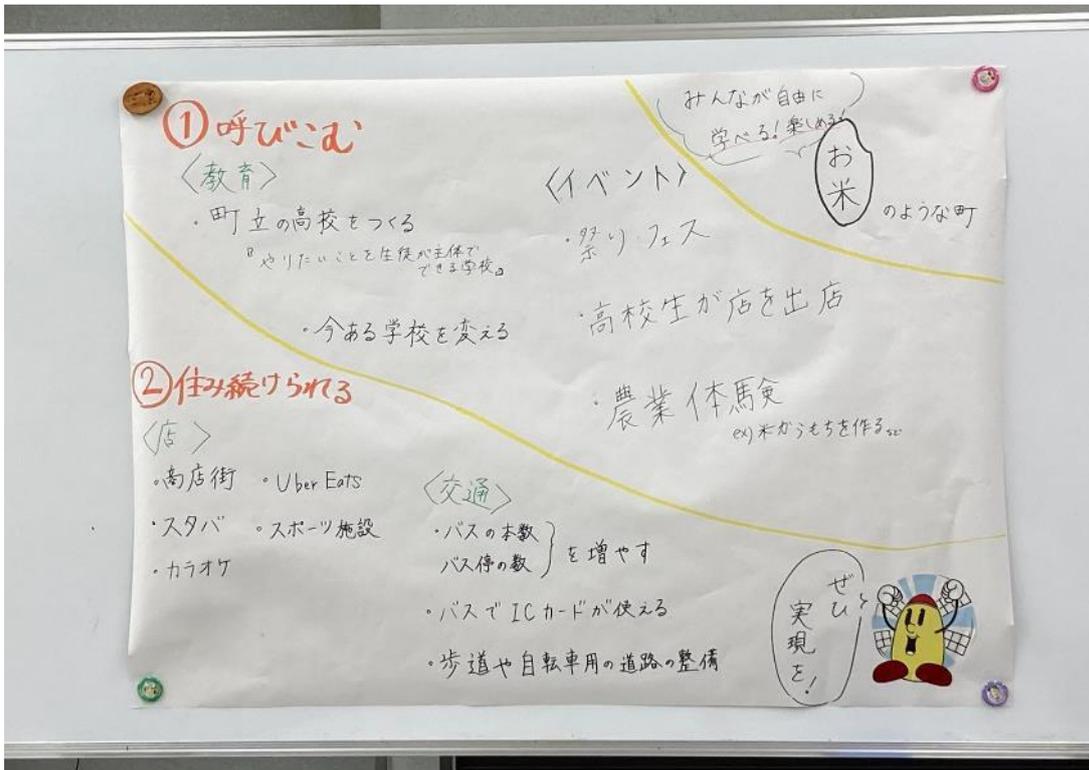
○イベントの実施

- ・祭り、フェスを開催し、町内外の人が楽しめる
- ・アピールになる
- ・学生がメニュー等を考え、イベントに参加（授業の一環）
- ・メニュー開発等で松伏ふるさとカレーを盛り上げる
- ・米を育てて餅を作ったり、米やスパイスから自分で作るカレー作り等、大人も子供も楽しめる農業体験のイベントを開催する

住み続けられるために…

《店、交通》

- ・店舗を増やす（商店街、スタバ、スポーツ施設、カラオケ、ショッピングモール）
- ・駅がなくてもバスを充実させる（本数、バス停を増やす、ICカード利用できる）
- ・歩道や自転車道を整備し、通行しやすくする



B班

【キャッチコピー】笑顔が「つのる」町

それぞれのテーマで問題点に対して解決策を提案します。

《 1. 交通・景観・ゴミ》

問題点

- ・道が危ない、事故が起きやすい、高齢者が転ぶ
⇒タイルを埋め直す、木の根をとる、道幅を広げる
- ・緑で景色が一緒、田んぼが多い
⇒企業をつくり、農家の人たちを呼んで管理（中高生対象のイベントをする）
- ・ゴミが多い、ポイ捨て、食品が余る
⇒企業をつくり、余った食べ物を食べられない人たちに提供する、リユースと協力して松伏がゴミを処理する。ゴミ箱をデザインで目立たせる、通路の近くに設置する、看板を作り目立たせる

《 2. 商業・働く場》

住みやすい町は働ける場が多い、自然が豊かである

問題点

- ・働ける場所が少ない、商業施設が減っている、農地、農家が減っている
⇒農家の人を集めて1つの企業とする、農地を1か所に集めて企業が管理する利点として農地の管理がしやすくなる、雇用の機会が生まれる、空いた農地に他の商業施設等を建てることのできる

《 3. 福祉》

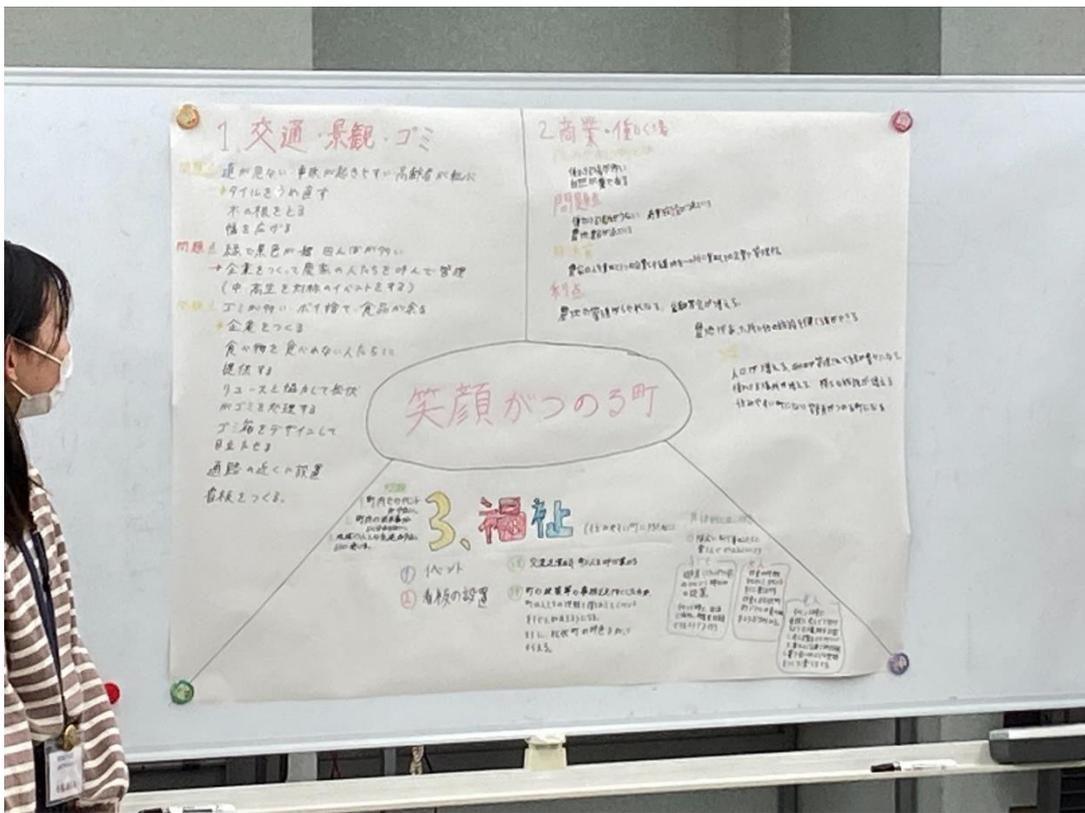
問題点

- ・町内でのイベントが少ない
- ・町内の出来事が良くわからない
- ・地域の人との交流が少ないように感じる
⇒①イベント、②看板の設置
幅広い年齢層が楽しめるようにする。
 - ・子供 イベント時のみ遊具設置、団体と協力し職業体験エリア設置
 - ・大人 四季の特徴を生かしたイベントを開催して楽しませる、四季と松伏町オリジナルの食べ物のコラボ等
 - ・老人 イベント時に看板に老人でも行けるような場所を記載し、集合して町の乗り合いバスに乗ってもらい、寄り合いを楽しんでもらう

結果

- ・ごみが無くなり、道が良くなり、イベント等が増える
- ・人口が増える、田畑が管理できて緑が豊かになる、働ける場所が増える、様々な施設が増える。
- ・子供、大人、高齢者が楽しめるイベントが開催、看板で広く周知される。

笑顔が「つのる」町になる！



(2) 町長より講評



- A班の農業を大事にし、地域型体験イベント等に生かすという案、お米の町というキャッチコピーは素晴らしいと思います。私も日本人としてお米は大事にしていきたいと考えています。自由な学校や体験型イベントというのも非常に魅力的です。
- B班の企業を誘致して働く場所を用意しつつ、農業も生かしていこうという案は非常に面白いと思います。優良な企業を誘致して、職住近接が実現できれば、人口も増えていくと考えます。
- それぞれの班で意見としてあった道路を良くしたり、バスの利便性が良くなることは今後必要であると考えています。
- 若い方だけでなく様々な世代にこれからも松伏町を愛して住み続けてほしいです。素晴らしいアイデアをありがとうございました。

・集合写真

A 班



B 班



※撮影時のみ一時的にマスクを外しています。

※今回の高校生まつぶし未来プロジェクトの結果については、第6総合振興計画策定の参考にさせていただきます。

・参加者アンケート（回答者 7名）

問1 本ワークショップに参加を考えた理由は何ですか（複数回答可）。

①まちづくりに参加したかったから	②自分の良い経験になるから	③テーマに関心があったから	④その他
2	3	2	・町に対する意見や要望 ・さそわれたから

問2 今回、本ワークショップにどんなことを期待していましたか（複数回答可）。

①参加を通して様々な地域の情報を入手し、視野を広げること	②様々な知識や経験を持つ同世代と知り合えること	③まちづくりに関して、松伏町に直接発言できること	④地域へ関わる良いきっかけとなること	⑤その他
3	5	5	3	・実際に実現に至るまで関わらなければいけないと思っていました

問3 以下の中でこれまでに参加したことがあるものはありますか（複数回答可）。

※親や親戚の方と一緒に参加した場合も含みます。

①町内会・自治会	②NPO・ボランティア活動	③地域・近隣での話し合い	④町のHP・広報の閲覧	⑤ワークショップや検討会議	⑥その他
1	2	1	2	1 (町以外の)	・ジュニアリーダー ・お父さんから

問4 今回のようなワークショップが開催されることで、まちづくりにどのような影響があると思いますか（複数回答可）。

①町民による自治意識が高まる	②町民と行政の連携が深まる	③町民同士の交流が深まる	④参加を通じて行政が身近に感じる	⑤その他
1	3	5	5	・子どもの意見も町にとどく

問5 今後、このようなワークショップの開催がありましたら、参加しますか。

①参加したい	②テーマに興味があれば参加したい	③参加したくない	④その他
4	3	0	

問6 その他、ご感想や今回のワークショップの内容・進め方についてご意見を伺います。

(改善点や「こういったやり方はどうか」などのアイデアでも結構です。)

- チームの仲間と意見を出し合って自分では思い付かないようなことを聞いて驚いたり興味を持つことができました。
- めったにワークショップなどやろうと思っていなかったので自分にとって良い経験になりました。
- もうあと3日ほしかったです。無理かもしれませんが、お時間が欲しかったです。
- いろいろな意見に触れられてとても良かったです。
- このような貴重な体験をさせていただきありがとうございました。
- カードゲームでSDGsについて話しあったりしたあとに町についての問題に入っていたのが良かったと思います。
- 今回のワークショップで町について意見をいえた貴重な経験ができたのでこのような機会をもっと増やしてほしいです!!
- AグループとBグループの交流も欲しい。→ 壁打ちみたいな
- もっと期間を伸ばして具体的な案まで出したい。
- ワークショップで出た案がその後どうなったのかが知りたい。
- 連絡手段はメールやLINEで行ってほしい。